

に○下

〔古今著聞集和歌〕亭子院多○宇鳥養院にて御遊有けるに、とりかひといふことを、人々によませられけるに、あそびあまた集れり、其中に歌よくうたひて、聲よきもの、有けるをとほる、に、丹後守玉淵が女白女となん申ける、○下

〔檜垣姫集〕くにかみしばし出らる、みちにさしあひて、○中名高きひがきなりと、人のいへば、

はたかくる、によびいづなづかしけれど、かくれ所もなく、をけをきしにをきてゐたれば、いかでいとかくは有しぞ、あはれなど、あればおもひわびて、

おいはて、かしろのかみはしろかはのみづはくむまでなりにけるかな

〔後撰和歌集雜七〕つくしのしら川といふ所にすみ侍けるに、大貳藤原興範朝臣のまかりわたる

ついでに、水たべんとて打よりてこひ侍ければ、水をもていで、よみ侍ける、

ひがきの姫

年ふればわが黒髪も白川のみづはくむまで老にけるかな

〔袋草子三〕肥後國遊君檜垣老後ニ落魄者也、○中

シラカハ、伴ノ所ニ有ル河也、如後撰ハ大貳興範ニアヒテ詠之、

〔朝野群載三〕遊女記

江口則觀音爲祖、中君□□小馬、白女主殿、蟹島則宮城爲宗、如意香爐孔雀三枚、神崎則河派姫爲

長者孤蘇宮子方命小兒之屬、皆是俱尸羅之再誕、衣通姫之後身也、上自卿相下及黎庶、莫不接牀第

施慈愛、又爲妻妾、歿身被寵、雖賢人君子、不免此行、南則住吉、西則廣田、以之爲祈徵髮之處、殊事白大

夫道祖神之一名也、人別刻期之數及百千、能蕩人心、亦古風而已、長保年中、東三條院參詣住吉社天

王寺、此時禪定大相國被寵、小觀音、長元年中、上東門院又有御行、此時宇治大相國被賞、中君延久年